

平成 20 年度環境・安全技術系活動報告

堀木 幹夫

工学研究科・工学部技術部 環境・安全技術系

1. はじめに

環境・安全技術系は技術長 1 名、前任専門技術職員 2 名、環境技術班（班長 1 名、班員 2 名）、放射線技術班（班長 1 名、班員 3 名）、安全技術班（班長 1 名、班員 3 名）、総計 14 名で構成されている。

本年度、他系から、2 名の異動があった。

2. 環境・安全技術系の実施業務

環境・安全技術系は主たる任務として、工学研究科および全学の環境・安全・衛生に関わる共通的な業務を遂行している。同時に、各専攻や講座からの業務依頼にも対応している。

今年度は 2 月 4 日現在で長期業務（平成 20 年 4 月 1 日～平成 21 年 3 月 31 日）38 件、短期業務（長期業務以外）10 件を受け入れた。

工学研究科等の環境・安全に係わる共通業務は、環境安全管理室、放射線安全管理室、工学研究科核燃料計量管理室、全学の核燃料管理施設等の室に技術職員を派遣し、実行している。室ではないが、Co-60 照射施設の管理、全学環境安全衛生管理室実施の有機廃液等の回収業務、実験系排水樹保守管理（臨時対応）、災害対策室、全学の省エネルギー関連の研究会の業務も実施している。

専攻等からの依頼業務について以下に列記する。

量子エネルギー工学専攻からの依頼（工作室等共通室の管理、各種委員会支援、放射線施設の放射線管理）、航空宇宙工学専攻からの依頼（危険物倉庫の管理、講座支援）、環境学研究科からの依頼（地震観測機器の維持管理、学生実験支援等）、社会基盤工学専攻からの依頼（情報機器管理支援、学生実験支援、講座支援）、エコトピア科学研究所からの依頼、等。今年度他系からの異動職員による新たな業務として、電気系専攻の学生実験、幾つかの専攻等のサーバー管理が加わった。

これらの業務は平成 19 年度と比べて、大きな変化はない。環境・安全技術系においては、共通的な業務で工学研究科や全学に貢献していると考えている。

3. 系の運営に関わる業務

3.1 系業務調整会議

系の運営を議論する目的で、今年度は以下のように概ね、2 ヶ月程度の間隔で定期的に 6 回の系業務調整会議を開催した。

第 1 回（平成 20 年 5 月 1 日）、第 2 回（平成 20 年 5 月 29 日）、第 3 回（平成 20 年 7 月 24 日）、第 4 回（平成 20 年 10 月 2 日）、第 5 回（平成 20 年 11 月 27 日）、第 6 回（平成 21 年 1 月 22 日）、3 月に第 7 回の系業務調整会議を開催する予定である。

3.2 系専門委員会

系専門委員会は教員 5 人、技術職員 4 人で構成されており、本年度は以下のように開催した。

第1回系専門委員会

日時：平成20年6月11日（水）

内容：環境・安全技術系職員の後補充について

3.3 系面談

平成20年度も各人の業務の実施状況、業務に対する希望、技術部・系の運営に対する意見・希望・不満等を把握するために、以下のように個別面談を行った。

第1回 日時：平成20年6月19日（木）9:00～12:00

場所：工学部6号館小会議室

対象：大久保、宮嶋、釣田、橋本、今井、下山

面談実施者：堀木技術長、大久保前任専門技術職員（大久保前任専門技術職員に対しては、堀木技術長）

第2回 日時：平成20年6月24日（火）10:00～12:00

場所：工学部7号館環境安全管理室会議室

対象：岡田、熊沢、平墳、青木

面談実施者：堀木技術長、大久保前任専門技術職員

第3回 日時：平成20年7月1日（火）10:00～12:00

斉藤、長嶋、松浪

面談実施者：堀木技術長、大久保前任専門技術職員

系面談では、各人が抱えている業務についての意見の徴収、改善策の提言、軸となる技術を構築することの重要性、それと同時に環境・安全技術系にとらわれず広い視点での技術を展開することの重要性、超勤時間の抑制、等について、広く意見交換を行った。平成19年度に引き続いて、各人への面談により、各人の要望、意見等が把握でき、今後の業務の実施上、貴重なものとなっている。

4. 系に関わる研修等

4.1 研修

今年度、環境・安全技術系が関わった技術部の研修等について以下に列記する。

工学部技術部研修（平成20年12月2日発表）

振動台実験による家具・ポンベ台等の耐震性検証

平墳 義正、大久保 興平、長嶋 宏弥

これらの内容については、本技報に掲載されている。詳細な内容は技報を参照して下さい。

名古屋大学技術研修会（平成21年3月5 - 6日）

モンテカルロシミュレーションを用いた放射線計測器の計測値の検討

下山 哲矢

振動台実験によるポンベ台等の耐震性検証

平墳 義正、大久保 興平、長嶋 宏弥

環境安全管理室による工学研究科の安全衛生の取り組み

堀木 幹夫、大久保 興平、宮嶋 伸好、平墳 義正、斉藤 彰、松浪 有高、近藤 一元

分析・物質技術系

内容については、名古屋大学技術研修会報告集を参照して下さい。

京都大学総合技術研究会（平成 21 年 3 月 9 10 日）

作業環境測定による化学物質リスクアセスメント

近藤 一元、宮嶋 伸好、斉藤 彰、松浪 有高、高井 章冶、安達 幸男

分析・物質技術系

4.2 講習会

今年度は平成 20 年 9 月 24 日に、以下の内容で系の講習会を実施した。

災害対策室を利用した防災教育

岡田嘉寿雄 班長

省エネルギーの実施と現状の課題

熊沢正幸 班長

これらの内容のアブストラクトは本技報に掲載されているので、参照して下さい。

4.3 業務報告会

各人が実施している業務について、相互に理解を進めるために業務報告会を実施した。

四半期毎に系の半数ずつが報告する形式で以下の日程で行った。

第 1 回 平成 20 年 6 月 18 日（火）13:30～15:30

第 2 回 平成 20 年 10 月 17 日（水）13:30～15:30

内容は半年の間に各自が実施した業務にスポットをあて、各人が困っていることや、考えていることを報告する。時間は概ね、報告 10 分、質疑 5 分程度。

業務報告会は実施から、4 年を経過し、ややマンネリとなってきた。後半は少し内容を検討するため、中断している。

今後の課題として、時間を長くとした業務報告等の実施も検討していきたい。更に各人が置かれている専攻内、工学研究科内での位置づけ等にも各人が目を配れるような、より質の高い報告を求めていく。

4.4 名古屋大学技術職員研修及び東海北陸地区合同技術職員研修サポート

名古屋大学技術職員研修（平成 20 年 8 月 27 29 日）

標記技術研修の安全管理コースにおいて、当系の熊沢 正幸が実行委員を務め、熊沢 正幸、松浪 有高が講義講師を、斉藤 彰、大久保 興平、堀木 幹夫が実習講師を務め、運営に寄与した。

東海北陸地区技術職員合同研修（平成 20 年 9 月 10 12 日）

標記研修に於いて、当系の岡田 嘉寿雄、平墳 義正、長嶋 宏弥が実行委員を務め、平墳 義正、長嶋 宏弥が実習講師を務め、運営に寄与した。

（平成 21 年 2 月 4 日、脱稿）